

[成果情報名] カキでのチャノキイロアザミウマに対する7月の追加防除の有効性

[要約]チャノキイロアザミウマによる被害が発生しやすい「刀根早生」などの渋ガキでは、従来の慣行散布に、発生ピーク予測に基づく7月のピーク前散布を追加することで、防除効果が向上する。

[キーワード] カキ、チャノキイロアザミウマ、防除、発生ピーク予測

[担当] 果樹・薬草研究センター

[分類] 普及・行政・教育の参考となる技術情報

[背景・目的]

奈良県内のカキ産地では「刀根早生」や「平核無」などの渋ガキが生産されている。近年、北部地域の渋ガキ産地を中心にチャノキイロアザミウマの被害が増加傾向にあり、効果的な防除方法が求められている。従来の慣行散布では、7月頃の発生ピークに合わせた適期の防除ができていないことが被害増加の一因と考えられる。そこで、発生状況を予測できるシステムを活用し、7月に予測される発生ピークに対応した追加散布の有効性を検証する。

[成果の内容・特徴]

1. カキ産地のある天理および五條におけるチャノキイロアザミウマ第3世代成虫の7月の発生ピークは、予測システムにそれぞれ天理は奈良市、五條は五條市のアメダスデータを入力することで概ね予測可能（表1）。
2. 予測システムによる7月の発生ピークに合わせた散布を追加する（以下、7月追加散布；表2、表3）ため、慣行散布に比べチャノキイロアザミウマに対する防除回数は1回増加するが、慣行散布と比べ、被害果率および被害度は低下する（表4、表5）。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及対象：カキ生産者
2. 普及予定地域：県内カキ生産地域
3. 7月追加散布では、予測システムによるピークの前に散布することが望ましい。
4. 2020年および2021年に果樹・薬草研究センター（五條市）の「刀根早生」において実施した試験結果である。

[具体的データ]

表1 7月の誘殺数（第3世代成虫）と発生ピーク予測との関係

調査地点	年次	予測システム*1による発生ピーク予測日	誘殺数*2調査による発生ピーク
天理*1	2019年	7月9日	7月9～16日
	2020年	7月9日	7月2～10日
	2021年	7月7日	7月1～8日
五條*1	2019年	7月18日	7月10～17日
	2020年	7月14日	7月18～26日
	2021年	7月12日	7月8～15日

*1 JPP-NET（一般社団法人日本植物防疫協会）有効積算温度計算シミュレーションversion2のパラメーター[共通]チャノキイロアザミウマ2（2009.4追加）（要有料ユーザー登録）に天理は奈良市、五條は五條市のアメダスデータを入力して判定

*2 黄色粘着トラップにより誘殺された成虫数を7～10日おきに調査

表2 試験区ごとの殺虫剤散布概要(2020年実施)

試験区	アセフェートWP 1500倍	カルタップ塩酸塩SG 1500倍	DMTPWP 1000倍	ピリフルキナゾンWDG 2000倍	ジノテフランWDG 2000倍	アセタミプリドWDG 4000倍
慣行散布	5月18日	6月4日	6月22日	-	-	8月4日
7月追加散布	5月18日	6月4日	6月22日	7月16日*	8月3日	-

*降雨が続いたため予測システムによる発生ピークの2日後に散布

表3 試験区ごとの殺虫剤散布概要(2021年実施)

試験区	アセフェートWP 1500倍	カルタップ塩酸塩SG 1500倍	ピリフルキナゾンWDG 2000倍	アセタミプリドWDG 4000倍	ジノテフランWDG 2000倍
慣行散布	5月11日	6月1日	6月18日	-	8月5日
7月追加散布	5月11日	6月1日	6月18日	7月10日	7月29日

表4 チャノキイロアザミウマに対する薬剤散布時期の違いによる防除効果(2020年実施)

	6月22日			8月22日			収穫期		
	被害果率	被害度	対無処理比	被害果率	被害度	対無処理比	被害果率	被害度	対無処理比
慣行散布	1.1	1.1	(3.6)	29.1	23.7	(50.9)	37.1	12.6	(20.5)
7月追加散布	0.0	0.0	(0.0)	4.4	3.4	(7.4)	18.1	8.7	(14.1)
無処理	34.7	31.1	(100.0)	71.3	46.6	(100.0)	82.5	61.6	(100.0)

表5 チャノキイロアザミウマに対する薬剤散布時期の違いによる防除効果(2021年実施)

	6月21日			8月27日			収穫期		
	被害果率	被害度	対無処理比	被害果率	被害度	対無処理比	被害果率	被害度	対無処理比
慣行散布	3.3	0.6	(5.8)	4.7	0.8	(1.4)	11.8	7.5	(14.5)
7月追加散布	0.7	0.1	(1.2)	2.6	0.4	(0.8)	4.0	2.2	(4.1)
無処理	33.3	9.7	(100.0)	89.0	56.1	(100.0)	75.3	51.9	(100.0)

[その他]

研究課題名：カキでのチャノキイロアザミウマの効率的防除方法の開発

予算区分・研究期間：県単・2020年～2021年

研究担当者：小島 英、杉村輝彦

発表誌等：